

いっしょに考えませんか。 この国に息づく「食」という絆、その未来を。

この子が大人になったとき、どんな味に「故郷」を想うだろう。

誰にでも、いくつになっても、ほっと落ち着ける味があります。

どこでも同じ、均一化された味ではない。込められた作り手の想いや温もりが
しっかりと感じられる、そんな味。助け合いのこころに根ざしたコミュニティで、
その作物は育ち、人々が互いに見守り、支えあうことで、品質と安全性とを高め、
ほかの土地にはない、その地域だけの味覚に築きあげられました。

その農村風景はただ美しいだけでなく、森林や里山の保護、水資源の確保、
自然災害の防止と、さまざまな側面から都市の生活までも守ってくれています。

この国で手塩にかけて育てられた食物だから感じられる、人と自然、
地域と社会の結びつき。食のグローバル化が叫ばれるいまだからこそ、
しっかり見つめ直したい。JAグループです。

